

## 「指数の和と直線」

僕が存在するのは  
ひとりの男と  
ひとりの女がいたからである  
この男女を「僕からみた1代前の世代」と呼ぶ

その男も  
その女も  
それぞれ  
ひとりの男と  
ひとりの女がいたから存在した  
これらの男女を「僕からみた2代前の世代」と呼ぶ

僕からみた世代をさかのぼる  
ふたつの配偶子がめぐりあい 接合し 新たな<sup>いのち</sup>生命となる  
この方法を初めて成功させた世代を「僕からみたn代前の世代」と呼ぶ

配偶子接合を行う以前は世代として数えない  
なぜなら  
それは分裂によって自分自身を増やしていきただけだからである  
分裂の際に分配されるゲノムに相違が生じ  
遺伝的に異なる個体が生まれることがあったとしても  
そこには男と女の関係がないからである

僕が存在するのは  
1代前の世代  $2^1$  個体から  
n 第前の世代  $2^n$  個体までがいたからである  
その総数  $N$  は次の式で表せる

$$N = 2^1 + 2^2 + 2^3 + 2^4 + \dots + 2^n \\ = 2^{n-1} - 2$$

$N$  の半数  $\frac{N}{2}$  回の配偶子のめぐりあいがあり 接合があった

網の目のように絡み合った膨大な数の<sup>いのち</sup>生命の営みがあった

僕はあなたを見つめる

これが僕の配偶子にとっての $\frac{N}{2}+1$ 回目の出会いになるのだろうと

僕の配偶子とあなたの配偶子が接合することで $2^n+1$ 世代目が生じるのだろうと  
 $2^n+1$ 世代目の誕生は $N$ 回の配偶子のめぐりあいの結果となるのだろうと

あなたが僕を見つめる

何のはからいもないまっすぐな視線で

あなたにはひとりの母があった

その母にもひとりの母があった

母の母をたどっていくと

地球に生まれた最初の

たったひとつの<sup>いのち</sup>生命にたどりつく

一直線につながる<sup>いのち</sup>生命

あなたのまっすぐな視線には

母性とも呼べる 強さと やさしさと ぬくもりがあった

あなたの視線は僕にはまぶしすぎた

だから僕は

あなたから目を背けてしまったのです